

「悪魔の誘惑に勝利されたイエス様」

マルコ 1:12-15

2021.10.31 平吹光太

I. 文脈の確認

マルコ 1 章 9 節から、イエス様は、私たち罪人の立場までへりくだられるために、バプテスマのヨハネから洗礼を受けられた。その時に、イエス様は、「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」と父なる神の御声を受け、二つの自己認識を持った。①神の御子であること。②主の僕であること。イエス様は、この二つの自己認識をこの悪魔の試みによって試された。サタンがイエス様に、“本当に神の子であり、神のしもべであるなら、本当にそのように生きられるのか”と問う。この誘惑を受けることは父なる神の御心。それは一体何のためであったのかということ、イエス様が受けられたサタンの試みを中心に見ていく。

II. 荒野でのサタンの試み

12 節の荒野とは、人間はもちろん、植物すら生息することのできない場所。何もなく、生きるのに困難な寂しい場所で、イエス様は静まっておられるとサタンの声が聞こえた。

13 節のサタンの意味について。「サタン」は、「誹謗中傷する者」という意味。神のことを人に悪く言い、人を神に訴え、責める者であるということ。悪魔は、私たちキリスト者に“あなたは本当にダメなクリスチャンだね”、“本当に悪い人だね”、“もうあなたは神に赦されない”、“もう神はお前を愛しておられない”などと心の中で責め、私たちの信仰をぐらつかせる。そのように責められると私たちは自分を責め、同じように人を責め、そして人との関係が悪くなっていく。神との関係も遠く感じる。しかし、イエス様は、私たちが自分の罪を告白した後も責めるお方ではない。また、悪に誘惑される方でもない。ですから私たちは、そのような悪魔のささやきに目を留めるのではなく、正直に罪を告白するなら主の十字架によって赦されるという、神の恵みに目を留めていきたい。

13 節の「試み」には、①「誘惑する」、②「試す、テストする」という二つの意味。この二つの意味は同じ言葉ですが、悪魔が試みる場合は、私たちに誘惑してダメにしようとする。しかし、神が悪魔の誘惑を許す場合は、神への従順を証明するために試みを許される。だから、12 節で、父なる神の御心を行うため、神への従順を明らかにするため、父なる神に与えられた御霊は、イエス様を荒野の試練へと導いた。

私たちも荒野の経験をする。神の声を聞こうと、祈り、みことばを読み、神に従う時、試練に直面をし、責められる声、訴える者の声が聞こえては来ないか？荒野は神と会う場所であると同時に試練にも会う場所。私たちは、試練に会いたくないと願う。いつも良いことばかりが続いてほしいと思う。けれども、神は、試練の体験を許されることがある。なぜか？それは試練を通して、私たちが神の似姿に変えられていくため。

試練にあった時に、誤解してはいけない二つのこと。

- ① 試練の時、神を悪く言うのは間違い。神は自ら誘惑せず、悪魔の誘惑を許されるだけ。私たちが常に神への愛へと立ち帰り、神の似姿へと変え続けてくださるため。
- ② 悪魔は神のように全能の力は持っておらず、単独では何もできない。悪魔は、神の許された中のみでしか私たちに誘惑できない。聖書はそのことをヨブ記 1 章、2 章で明確に記す。

III. イエス様が受けられた三つの誘惑

一つ目の誘惑。「すると、試みる者が近づいて来て言った。『あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。』」（マタイ 4:3）「あなたが神の子なら」というのは、原文の文法では、「神

の子なのだから」という表現の方が正しい。また、すでにイエス様が神の子であることが父なる神の声によって明らかであるため。だから、悪魔は「神の子なのだから」とイエス様が神の子として本当に歩むのかを試し、神の子として歩ませないため、神から与えられている力を自分のために使うように、「これらの石がパンになるように命じなさい」と誘惑する。「神の子、神のしもべ」として、永遠に価値のある父なる神に従い、荒野で空腹を耐え忍ぶか？それとも父なる神の願いから離れて、石をパンに変えて空腹を満たすか？という二者択一の選択をイエス様は迫られた。これは誘惑の本質。悪魔の三つの誘惑の本質は、イエス様が、私たちの罪のために十字架で死なずともこの世的な力を示して、世から褒められる政治的な救い主とならせ、私たち人間を罪から救う真の救い主とならせないこと。

イエス様は、どのようにこの一つ目の誘惑に勝利されたか？「イエスは答えられた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」(マタイ 4:4)と言われた。イエス様は、悪魔の悪い考えに耳を貸さず、悪魔の言葉に聖句を引用して勝利をされた。

私たちも同じような誘惑に会うことがある。永遠に価値のある父なる神の御心を知りながらも、自分の欲を満たすために、神の思いとは逆の行動する弱さが私たちにもある。〈証〉

悪魔は、私たちを神から引き離そうとする。私たちは弱い者で、自分の力ではどうすることもできない者。ですから、私たちは、命をかけて私たちを救い出してくださった主の十字架の赦しにいつも目を留めていく必要がある。日々イエス様を見上げ、みことばをたくわえ、誘惑に勝利していきたい。罪を犯した時には、悔い改め、赦しを頂こう。私たちは悪魔の誘惑に対して、注意してもし過ぎることは決してない。

二つ目の誘惑。「すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。『あ

なたが神の子なら、下に身を投げなさい。『神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。』(マタイ 4:5-6)

「あなたが神の子なら」も 3 節と同じ、「神の子なのだから」と読むことができる。悪魔はイエス様に「神の子なのだから」、高い所から飛び降りてみなさい、御使いが守るから死ぬことはないと言った。詩篇 91 篇 11~12 節の引用。悪魔は聖書をよく知り、自分勝手に解釈を変えてみことばを使う。

「主があなたのために御使いたちに命じてあなたのすべての道であなたを守られるからだ。彼らはその両手にあなたをのせあなたの足が石に打ち当たらないようにする。」(詩篇 91:11-12)と書かれており、悪魔の引用には、「すべての道」が外されている。悪魔は高いところから飛び降りても守られるという意味で使う。しかし、この聖句の本当の解釈は、「すべての道」の「道」とは、神の御心に従って歩む道であれば、どこでも神が御使いを送って、守ってくださるが正しいのであって、好き勝手にやっても最終的には神様が助けてくれるから大丈夫という意味ではない。

イエス様は、悪魔の言葉に答える。「イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」(マタイ 4:7) これは申命記からの引用。「あなたがたがマサで行ったように、あなたがたの神である主を試みてはならない。」(申命記 6 章 16 節) イスラエルの民が、主を試みてしまった出来事の聖句をイエス様が引用された。神が共にいて守ってくださるかどうかは、人間が神を試して、飛び降りても守られるものではなく、神を信じ、従っていく中で守られるもの。イエス様は、神を試すことはせず、神の御心に従って歩むのなら、「すべての道で」神が守りを信じて、十字架の道を主のしもべとして歩まれた。

三つ目の誘惑。「悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、こう言った。『もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。』(マタイ 4:8-9)

悪魔は、この世の栄華、つまり権力や財力を全てイエス様にあげようと言った。悪魔は、この世の栄華を手に入れば、辛く苦しい十字架の道を通らなくても王になれると提案。ただし一つ条件は、栄華

をあげる代わりに悪魔を拝むこと。歴史を見ても多くの悪、不正で絶大な権力や財力を持った人物がいる。〈例話〉

ここの誘惑は、今あるものよりもっと素晴らしいものをあげるから、あなたが持っている真の神を礼拝する信仰を捨てなさいということ。それに対して、イエス様は、「そこでイエスは言われた。『下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。』」（マタイ 4章 10節）と言われ、悪魔を退けた。これは申命記 6章 13節からの引用。〈証〉

私たちは、どんなに貧しく、社会的身分や地位が低かったとしても、最も価値あるイエス様の福音に生き、従い、語る。福音が最も価値のあるものだから。神は全ての必要を満たしてくださる。主を信頼し従う。

IV. 最初のアダムと最後のアダム

このイエス様が受けられた悪魔からの誘惑は一体何を意味しているのか。それは、創世記に書かれている最初の人であり、人類の代表であるアダムはサタンから受けた誘惑に負けたが、神の一人子であるイエス様は、人としてお生まれになり、最後のアダムとしてサタンの誘惑を受けられた。最初のアダムは誘惑に負け、罪の呪いとして死が私たち人類の中に入った。もしアダムがサタンの誘惑に勝っていたなら、全人類は祝福の中に留まっていたはず。しかし、負けた。本質的に死とは、私たちの命の源である神との断絶関係という意味。それ故、最初のアダムに属する者の行き着くところは、滅びである。

そこで、父なる神は、罪を受け継いでいるアダムの子孫からではなく、罪なきひとり子イエス様をこの世界に、最後のアダムとして遣わされた。そして、イエス様がサタンの誘惑に打ち勝ち、十字架の死にも勝利されたイエス様に付く者は同じ勝利を得るものとしてくださった。実際に、最初のアダムは人間の代表として、悪魔の誘惑に負けた。しかし、人間の救いのために来られた最後のアダムであるイエス様は悪魔の誘惑に勝利し、救い主として合格し、三年間で救いの御業を成し遂げてくださった。

「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」（マルコ 1:14-15）

父なる神は、イエス様が悪魔の試みを受け、最初のアダムから始まったその全ての失敗の誘惑に勝利し、救い主と認められた。だからイエス様は神の福音を宣べ伝え、「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と語る、公の生涯をスタートされた。そして、最終的にイエス様は、私たち人間の失敗に対する責任は、自分には全くないのに罵倒され十字架につかれた。なぜか？私たちが愛され、救うため。

私たちはイエス様を信じて、神の子、神のしもべとされた。私たちがキリストの姿に変えられていくには時間がかかり、私たちが完成に導くために神は、試みられることがある。しかし、イエス様は、この世にある全ての試練や苦難を通られ勝利された。今も私たちが罪から離れ、キリストの姿へと変えられることを願い、天において、私たちのためにとりなして下さっている。この勝利されたイエス様を見上げてより頼み、主の喜ばれる歩みをさせて頂きたい。そして主にあって一つとされた私たちが共に愛しあい、支え合い、助け合いながら、歩む。

「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」（ヨハネ 16:33）